

西洋中世学会会員年間業績リスト（2009年1月～12月）

*広い意味での西洋中世（古代末期～近世、イスラーム、ユダヤ、中東アジアなども含む）に関する刊行された業績を、自己申告していただいたものです。

氏名=五十音順

青木繁博（アオキ シゲヒロ）

「*The Cloud of Unknowing*に見られるワードペア」『新潟青陵大学短期大学部研究報告』39、81-94頁

赤阪俊一（アカサカ シュンイチ）

「罪と罰 序論」服藤早苗・赤阪俊一編『罪と罰の文化誌』（森話社）、5-19頁

「女性による／に対する犯罪——ヨーロッパ古代・中世のレイプをめぐる罪と罰」服藤早苗・赤阪俊一編『罪と罰の文化誌』（森話社）、140-175頁

[翻訳]ジャクリーン・マレイ「ひとつ肉、ふたつのセックス、みつつのジェンダー」『埼玉学園大学紀要 人間学部篇』9、327-339頁

朝治啓三（アサジ ケイゾウ）

「シモン・ド・モンフォールのガスコーニュ統治」『史林』92(5)、34-65頁

「17世紀オーストリア貴族にとっての『大阪図屏風』の価値（シンポジウム報告）」、『関西大学なにわ大阪文化遺産学研究センター報告書』

「2008年の歴史学界 回顧と展望 中世イギリス」『史学雑誌』118(5)、322-326頁

[翻訳]デイヴィッド・ロラソン「イングランドと大陸における王権の起源」『関西大学文学論集』58(3)、29-58頁

[翻訳]ポール・ブランド「イングランドにおける法曹の起源」（苑田亜矢との共訳）『北海学園大学法学研究』44(3/4)、531-550頁

足立孝（アダチ タカシ）

「9-11世紀ウルジェイ司教座聖堂教会文書の生成論—司教座文書からイエ文書へ、イエ文書から司教座文書へ—」『西洋中世研究』1(創刊号)、87-105頁

「遍在する「辺境」—スペインからみた紀元千年—」（上）（下）『人文社会論叢』（人文科学篇）21、59-75頁、同22、43-62頁

[書評]「Yoshiki Morimoto, *Études sur l'économie rurale du haut Moyen Âge. Historiographie, régime domanial, polyptyques carolingiens*, Bruxelles: Éditions De Boeck Université, 2008, 472p.」『西洋史学論集』47、75-80頁

阿部仲麻呂（アベ ナカマロ）

上智大学新カトリック大事典編纂委員会編『新カトリック大事典』第IV巻（研究社）の教父・教理関係の記事

「こわれえぬうつわ——黒茶碗とピエタ像——」『キリスト教文化研究所論集』（白百合女子大学）10、19-45頁

「日本という地域におけるパウロの神学の意義に関する一考察——新井奥遼のパウロ理解を手がかりにして」『カトリック研究』（上智大学神学会）78、1-28頁

「『花』というシンボルが問いかけること——世阿弥の『風姿花伝』および『花鏡』から学ぶ」『人文科学研究所紀要』（中央大学人文科学研究所）66、43-57頁

「世阿弥とイエス 破の段 一巻の終わりは栄光の開幕」『春秋』（春秋社）505（1月号）、18-21頁

「花の哲学 序説」『文苑』（清泉女子大学）26、66-69頁

「教皇ベネディクト16世『ナザレのイエス』を読む」『春秋』（春秋社）507（4月号）、18-20頁

「表裏一体の真実——受難と復活をめぐる」『カトリック生活』ドン・ボスコ社（4月号）、1-3頁

「世阿弥とイエス 急の段 痛みと赦しを伴う慈しみとしての美」『春秋』（春秋社）508（5月号）、24-27頁

[書評]「宮本久雄『いのちの記憶 受難と甦りの証言』」『年報』（清泉女子大学キリスト教文化研究所）17、189-191頁

[書評]「ベネディクト16世回勅『希望による救い』」『年報』（清泉女子大学キリスト教文化研究所編）17、191-193頁

[書評]「長島世津子『ライフシェアとパートナーシップ キリスト教女性学』」『年報』（清泉女子大学キリス

ト教文化研究所編) 17、193-195 頁

[書評]「谷隆一郎『人間と宇宙的神化——証聖者マクシモスにおける自然・本性のダイナミズムをめぐって』
『カトリック研究』(上智大学神学会) 78、145-153 頁

[書評]「今道友信『超越への指標』『カトリック研究』(上智大学神学会) 78、154-161 頁

[書評]「ただいま読書中 1」『キリスト新聞』(キリスト新聞社) 3083 (1月31日号) 6 面

[書評]「ただいま読書中 2」『キリスト新聞』(キリスト新聞社) 3089 (3月14日号) 4 面

[書評]「ただいま読書中 3」『キリスト新聞』(キリスト新聞社) 3095 (4月25日号) 4 面

[書評]「ただいま読書中 4」『キリスト新聞』(キリスト新聞社) 3101 (6月20日号) 4 面

[書評]「ただいま読書中 5」『キリスト新聞』(キリスト新聞社) 3107 (8月1日号) 4 面

[書評]「ただいま読書中 6」『キリスト新聞』(キリスト新聞社) 3113 (9月26日号) 4 面

[書評]「ただいま読書中 7」『キリスト新聞』(キリスト新聞社) 3119 (11月14日号) 4 面

天野 恵 (アマノ ケイ)

[翻訳] ピエトロ・ベンボ「アゾラーニ 第一巻」(深草真由子との共訳)『原典 イタリア・ルネサンス人文主義』(池上俊一監修、名古屋大学出版会)、797-853 頁

井口篤 (イグチ アツシ)

“The Visibility of the Translator: The *Speculum Ecclesie* and *The Mirror of Holy Church*,” *Neophilologus*, 93, pp. 537-552.

池上俊一 (イケガミ シュンイチ)

『世界歴史の旅 イタリア——建築の精神史』(山川出版社)

『原典 イタリア・ルネサンス人文主義』(監修、名古屋大学出版会)

「ヨーロッパ中世都市における暴力」加藤千香子・細谷実編『暴力と戦争 (ジェンダー史叢書・第5巻)』(明石書店)、39-57 頁

[翻訳] 逸名作家『西洋中世奇譚集成 東方の驚異』(講談社)

[翻訳] ピエール・パオロ・ヴェルジェーリオ「パウルス」、レオン・バッティスタ・アルベルティ「文学研究の利益と損失」『原典 イタリア・ルネサンス人文主義』(池上俊一監修、名古屋大学出版会)、185-213、335-383 頁

池上忠弘 (イケガミ タダヒロ)

『Anglo-Saxon 語の継承と変容 1 中世英文学』(松下和紀との共編、専修大学出版局)

「チョーサーの笑い話」松下和紀・池上忠弘編『Anglo-Saxon 語の継承と変容 1 中世英文学』(専修大学出版局)、7-33 頁

「Widsith 詩人が思い描くゲルマーニア」唐澤一友編『忍足欣四郎先生追悼論文集「ベーオウルフとその周辺」』(春風社)、443-467 頁

「チョーサーの笑い話—『粉屋の話』を巡って(その4)」『Anglo-Saxon 語の継承と変容叢書 4 ことばの普遍と変容』3 (専修大学社会知性開発研究センター/言語・文化研究センター)、23-27 頁

[翻訳]「ガウエイン」詩人『サー・ガウエインと緑の騎士』(専修大学出版局)

石塚 晃 (イシヅカ アキラ)

「A Study of the Old Testament Cycle in a Thirteenth-century Psalter in the Trinity College, Cambridge University (Cambridge University, Trinity College, MS. B. 11. 4)」『活水論文集』(活水女子大学) 52、1-13 頁

石野はるみ (イシノ ハルミ)

『チョーサーの自然---四月の雨が降れば---』(松籟社)

一條麻美子 (イチジョウ マミコ)

「ニーベルンゲンの歌」「トリスタンとイゾルデ」「パルツィヴァール」保坂一夫編『ドイツ文学 名作と主人公』(自由国民社)、20-23、27-30、31-34 頁

「《パルジファル》と中世の聖杯物語」『ワーグナー・フォーラム 2009』(東海大学出版会)、68-82 頁

伊藤亜紀 (イトウ アキ)

[翻訳]シシル『色彩の紋章』(徳井淑子との共訳、悠書館)

[書評]「自著を語る 58 シシル『色彩の紋章』」『地中海学月報』320、7 頁

井上浩一（イノウエ コウイチ）

『ビザンツ 文明の継承と変容』（京都大学学術出版会）

『ビザンツ皇妃列伝』（白水社）

『世界の歴史（11）ビザンツとスラヴ』（栗生沢猛夫との共著、中央公論新社）

井上周平（イノウエ シュウヘイ）

“«Got weis, wie es faren wirt»: Krankheiten und die Kranken in der Geschichte,” 2. *Deutsch-japanisch-koreanisches Stipendiatenseminar (9. Treffen von DAAD-Stipendiaten)* (=Veröffentlichungen des Japanisch-Deutschen Zentrums Berlin, 58), pp.76-84.

「ケルン市歴史文書館倒壊とその後—復興への道筋と『市民アーカイブ』構想」（平松英人との共著）『歴史評論』714、88-97頁

[翻訳]ルードルフ・クーヘンブーフ「イデオロギーの対立からコンセプトの万華鏡へ—ドイツから見た『封建制』論、一九五〇年代から一九八九年の転換まで」近藤成一ほか編著『中世 日本と西欧—多極と分権の時代』（吉川弘文館）、384-439頁

岩熊幸男（イワクマ ユキオ）

“Pseudo-Rabanus super Porphyrium (P3),” *Archives d'histoire doctrinale et littéraire du moyen âge* 75 (2008), pp. 43-196.

“Vocales Revisited,” *The Wordl in Medieval Logic, Theology and Psychology* (Ch. Burnett and T. Shimizu, 2009, Turnhout: Brepols, pp. 81-171.

印出忠夫（インデ タダオ）

『宗教の世界史（8）キリスト教の歴史1』（松本宣郎・森田安一との共著、山川出版社）

上野未央（ウエノ ミオ）

「中世後期～近世初期イングランドの俗語歌謡—写本群の分析から」『人間文化創成科学論叢』（お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科）11、97-107頁

「一五世紀イングランドの聖母マリア像—俗語歌謡のテキストから—」『史学』（慶應義塾大学三田史学会）78 (3)、73-102頁

内田日出海（ウチダ ヒデミ）

『物語ストラスブールの歴史—国家の辺境、ヨーロッパの中核』（中公新書）

「国境と歴史的身份—ストラスブールの場合—」『成蹊大学経済学部論集』40 (2)、121-139頁

大黒俊二（オオグロ シュンジ）

「古文書学から史料論へ」齊藤晃編『テキストと人文学—知の土台を解剖する』（人文書院）、36-49頁

大高順雄（オオタカ ヨリオ）

[翻訳]W. D. エルコック著『ロマン語—新ラテン語の形成と進化—』（学術出版会）

大宅明美（オオヤ アケミ）

「十三世紀フランスにおける王権のコミュニヌ政策と都市内諸権力—ルーアンとポワチエのコミュニヌ文書の比較検討から—」『史学研究（広島史学研究会）』265、19-36頁

大山知児（オオヤマ トモジ）

[翻訳] R.A.スケルトン(R.A.Skelton)編「ヴィンランド・マップ(15世紀): 地名と注記(2)」『立正西洋史』26、139-149頁

岡崎隆哲（オカザキ タカアキ）

「アウグスティヌスにおけるキリスト者の戦い—恩恵と自由意志をめぐる—考察—」『日本の神学』（日本基督教学会）48、48-78頁

尾形希和子（オガタ キワコ）

“Il concetto di <terra> e la sua rappresentazione: un tentativo di studio comparato tra Italia e Giappone (The concept of “Earth” and its representation: a tentative comparative study between Italy and Japan),” *Terra! I colori del sacro* 5, Messaggero di Sant’Antonio Editrice, Padova, pp. 98-125.

小澤実 (オザワ ミノル)

- 『エリアスタディーズ 75 デンマークを知るための 68 章』(村井誠人編、明石書店)
- 『ヨーロッパの中世 3 辺境のダイナミズム』(薩摩秀登・林邦夫との共著、岩波書店)
- “Rune stones create a political landscape: towards a methodology for the application of runology to Scandinavian political history in the late Viking Age: Part 2,” *HERSETEC: Hermeneutic Study and Education of Textual Configuration (SITES 2)* 2 (1), pp. 65-85.
- “Scandinavian way of communication with the Carolingians and the Ottonians,” Shoich Sato (ed.), *Herméneutique du texte d'histoire: orientation, interprétation et questions nouvelles. Proceedings of the Sixth International Conference: Hermeneutic Study and Education of Textual Configuration* (Global COE Program International Conference Series, No. 6), Nagoya: Graduate School of Letters, Nagoya University, 2009, pp. 65-75.
- 「イブン・ファドラーンの視線 10 世紀北西ユーラシア史の中のスカンディナヴィア系集団」『中央評論 特集: 越境する西洋中世』266、21-28 頁
- 「カロリング諸王とオットー朝皇帝に対するスカンディナヴィア人のコミュニケーション手法」佐藤彰一編『歴史テキストの解釈学 針路、解釈実践、新たな諸問題 「テキスト布置の解釈学的研究と教育」第 6 回国際研究集会報告書』(名古屋大学大学院文学研究科)、201-211 頁
- 「林立するルーン石碑のなかで イェリング石碑と「デンマーク」の誕生」『歴史学研究 2009 年増刊号』859、161-168 頁
- 「ルーン石碑と対話する イェリングの二つのルーン石碑」『歴史と地理 世界史の研究』219、53-56 頁
- [翻訳]スミ・シマハラ「カロリング期の聖書注解書」佐藤彰一編『歴史テキストの解釈学 針路、解釈実践、新たな諸問題 「テキスト布置の解釈学的研究と教育」第 6 回国際研究集会報告書』(名古屋大学大学院文学研究科)、143-152 頁
- [翻訳]クリス・ウィッカム「語りに変容する文書 グレゴリオ・ディ・カティノーとファルファ修道院文書庫」(佐藤彰一との共訳)佐藤彰一編『歴史テキストの解釈学 針路、解釈実践、新たな諸問題 「テキスト布置の解釈学的研究と教育」第 6 回国際研究集会報告書』(名古屋大学大学院文学研究科)、163-170 頁
- [書評]「萌えいずる世界、紡がれる宇宙 書評: 金沢百枝『ロマネスクの宇宙 ジローナの『天地創造の刺繍布』を読む』東京大学出版会、2008 年」『UP』436、10-16 頁
- [書評]「H・I・マルー (岩村清太訳)『アウグスティヌスと古代教養の終焉』知泉書館、2008 年」『史学雑誌』118 (2)、129-130 頁

小野賢一 (オノ ケンイチ)

- [書評]「八塚春児『十字軍という聖戦 —キリスト教世界の解放のための戦い—」『藤女子大学キリスト教文化研究所紀要』10、77-83 頁

柏渕直明 (カシブチ ナオアキ)

- 「16 世紀フィレンツェの議事録—」『立正西洋史』(立正大学西洋史研究会) 26、115-124 頁
- [書評]「ジョン.M.ネジェミー『フィレンツェ史—1200-1575 年—最近のフィレンツェ史研究動向を巡って」『文化継承学論集』(明治大学大学院文学研究科) 5、43-55 頁

片上茂樹 (カタカミ シゲキ)

- 「トマス・アキナスにおけるエンス(ens)の二区分—存在命題への一考察」『アルケー』17、70-79 頁
- 「命題に関する二通りの理論—トマス・アキナスにおける「S は P である」という命題」『中世哲学研究 VERITAS』28、52-68 頁

桂芳樹 (カツラ ヨシキ)

- [翻訳]アン・ペテル・クリアーノ『靈魂離脱とグノーシス』(翻譯ならびに解説、岩波書店)

加藤玄 (カトウ マコト)

- 「都市を測る—フランス測量術書にみる尺度と境界」高橋慎一郎/千葉敏之編『中世の都市 史料の魅力、日本とヨーロッパ』(東京大学出版会)、69-93 頁
- 「バスティードの歴史的背景」伊藤毅編『バスティード フランス中世新都市と建築』(中央公論美術出版社)、17-38 頁
- 「サン・スヴェール修道院『ベアトゥス黙示録註解』転写文書—偽文書転写過程をめぐって—」『史艸』50、25-43 頁

金尾健美 (カナオ タケミ)

「ヴァロワ家ブルゴーニュ公フィリップ・ル・ボンの財政（5）—ブルゴーニュ収入役ジャン・フレニヨの訴訟—」『川村学園女子大学研究紀要』20 (1)、1-51 頁

金沢百枝（カナザワ モモエ）

[翻訳]アイヴァン・ギヤスケル「複製技術時代以降のキリスト像の奇跡像を求めて」『死生学研究』（東京大学大学院人文社会系研究科）12、48-65 頁

加納修（カノウ オサム）

“Quelques notes sur la représentativité des actes transmis des Mérovingiens,” *HERSETEC* 2 (1), pp. 33-42.

“Dater les deux actes du Formulaire de Marculfe (I, 12 et 13):quelques remarques sur l'évolution de l'affatomie,” in *Herméneutique du texte d'histoire: orientation, interprétation et questions nouvelles*, ed. Shoichi SATO, Global COE Program International Conference Series No. 6, Graduate School of Letters, Nagoya University, pp. 33-44.

「西欧中世初期史研究者から見た「ローマ帝国衰亡論」（シンポジウム・コメント）フォーラム 第58回日本西洋史学会大会小シンポジウム報告「ローマ帝国の「衰亡」とは何か」『西洋史学』234、67-69 頁

「2008年の歴史学界—回顧と展望（ヨーロッパ中世：「一般」「西欧・南欧）」『史学雑誌』118 (5)、312-318 頁

[翻訳]レジーヌ・ル・ジャン『メロヴィング朝』（白水社【文庫クセジュ】）

[翻訳]エチエンヌ・ルナール「法テクストの考古学：サリカ法典」*Herméneutique du texte d'histoire: orientation, interprétation et questions nouvelles*, ed. Shoichi SATO, Global COE Program International Conference Series No. 6, Graduate School of Letters, Nagoya University、121-141 頁

[書評]「橋本龍幸著『聖ラダグンディスとポスト・ローマ世界』」『史学雑誌』118 (7)、102-109 頁

川添信介（カワゾエ シンスケ）

“*Verbum* and Epistemic Justification in Thomas Aquinas,” in *The Word in Medieval Logic, Theology and Psychology* (ed. by Tetsuro Shimizu and Charles Burnett), Brepols, pp.273-289.

[翻訳]トマス・アクィナス『トマス・アクィナスの心身問題 』『対異教徒大全』第2巻より』（知泉書館）

河原温（カワハラ アツシ）

『都市の創造力』（岩波書店）

『ヨーロッパの歴史と文化—中世から近代』（草光俊雄との共編著、放送大学教育振興会）

「ルネサンス期フランドル都市の風景—ブルッヘを窓口として—」『ユーロピアン・グローバリゼーションと諸文化圏の変容』（研究プロジェクト報告書II、東北学院大学オープン・リサーチセンター）、43-52 頁

「ブロック アナール学派始祖の戦争体験」『月報』（興亡の世界史11）、1-3 頁

川原田知也（カワハラダ トモヤ）

「13世紀パリ筆録説教にみる説教の構造—ウブロニエールのアルヌルフスの枝の主日説教を例に—」『中世思想研究』51、43-57 頁

菊地智（キクチ サトシ）

「リュースブルクにおける「神と人間との合一」のテーマとキリスト論」『中世思想研究』51、77-88 頁

菊池智子（キクチ トモコ）

[書評]「ロニー・ポチャ・シャー著（佐々木博光訳）『トレント—四七五年』」『史林』92 (3)、162-163 頁

木谷明人（キダニ アキト）

「13世紀後半カスティール王国における地方統治制度の生成—アデランタード・マヨールの導入をめぐる—」『クリオ』23、1-15 頁

北濱佳奈（キタハマ カナ）

「フェリーペ2世期のカスティール王国コルテスについて - 制度史的考察の試み - 」『スペイン史研究』23、1-15、42-43 頁(西文要旨)

草生久嗣（クサバ ヒサツグ）

「越境する知をささえるもの—ビザンツの情報集積」『中央評論』266、56-61 頁

楠戸一彦 (クスド カズヒコ)

「ドイツ中世後期の『トーナメント』に関する研究—ハイルブロン『トーナメント規則』(1485)の成立事情」『スポーツ史研究』22、21-31頁

久米順子 (クメ ジュンコ)

“La jerarquización espacial del folio iluminado durante la transición del “arte mozárabe” al románico,” MONTEIRA ARIAS, I., MUÑOZ MARTÍNEZ, A., VILLASEÑOR SEBASTIÁN, F. (eds.), *Relegados al margen: marginalidad y espacios marginales en la cultura medieval*, Madrid, pp. 243-255.

“La producción de códices iluminados en los monasterios fronterizos durante los inicios de la Reconquista,” CABAÑAS BRAVO, M., LÓPEZ-YARTO ELIZALDE, A., RINCÓN GARCÍA, W. (coords.), *Arte en tiempos de guerra. Actas de XIV Jornadas Internacionales de Historia del Arte*, Madrid, pp.263-272.

「宮廷と修道院の間で—レオン王国の王女たちによる美術パトロネージと初期スペイン・ロマネスク」『西洋美術研究』(三元社)15(特集:聖俗のあわい)、64-83頁

黒岩三恵 (クロイワ ミエ)

“*Une Legenda Sancti Thomae* de Marie de Clermont, prieure de Saint-Louis de Poissy ? : A propos du manuscrit IL.60 conservé à la Bibliothèque nationale du Portugal à Lisbonne,” *Journal of the College of Intercultural Communication[Rikkyo University]* 1, pp.143-158

黒川正剛 (クロカワ マサタケ)

「西洋中世史研究と怪異学—前近代史の共通言語を目指して」東アジア怪異学会編『怪異学の可能性』(角川書店)、246-263頁

児嶋由枝 (コジマ ヨシエ)

「一二世紀末のマジ図像とカール大帝図像—シュタウフェン朝神聖ローマ皇帝権とロマネスク聖堂彫刻—」『上智史学』(上智史学会)54、59-76頁

小林典子 (コバヤシ ノリコ)

「ジャン・ルベール集成『色の書』にみるジャック・クーヌの^{レシビ}技法書—14.15世紀フランス古文獻とパリ・ミニアチュール彩色法の刷新—(2)」『大阪大谷大学文化財研究』9、1-59頁

齋藤泰 (サイトウ ヤスシ)

「スイス連邦の『起源』—一二九一年同盟文書とテル伝説—」『秋大史学』55、1-25頁

櫻井美幸 (サクライ ミユキ)

「宗教改革期における女子教育の理念と実践—プロテスタントとカトリックの比較を中心に—」森田安一編『ヨーロッパ宗教改革の連携と断絶』(教文館)、271-287頁

「後期中世ドイツ都市における商家の女性労働—家族経営における役割を中心に—」長野ひろ子・松本悠子編著『ジェンダー史叢書6 経済と消費社会』(明石書店)、43-57頁

「カトリック公教要理(カテキズム)における女子教育の理念—ゲオルグ・フォークラーのカテキズム(1625年)から—」『史艸』50、64-81頁

櫻井康人 (サクライ ヤスト)

「マルティン・フォン・パイリスの「十字軍」—「十字軍」参加者の「十字軍」観—」前川和也編『空間と移動の社会史』(ミネルヴァ書房)、91-114頁

「15世紀前半の聖地巡礼記に見る十字軍・イスラーム・ムスリム観—後期十字軍再考(3)—」『ヨーロッパ文化史研究』10、53-100頁

佐々井真知 (ササイ マチ)

「大法官府裁判所の裁判関連文書に見るシルクウーマン—中世後期ロンドンの女性のライフサイクルと仕事—」『お茶の水史学』(お茶の水女子大学)52、137-176頁

佐々木徹 (ササキ トオル)

「聖アンセルムスの人間論」『言語文化研究所紀要』(茨城キリスト教大学言語文化研究所)15、59-81頁

「神の存在の論証をめぐる ―聖トマスと聖アンセルムス―」『茨城キリスト教大学紀要』43、I. 人文科学、1 (182) -17 (166) 頁

薩摩秀登 (サツマ ヒデト)

『ヨーロッパの中世 (3) 辺境のダイナミズム』(小澤実・林邦夫との共著、岩波書店)

佐藤彰一 (サトウ ショウイチ)

Herméneutique du texte d'histoire. Orientation, interpretation et questions nouvelles, Graduate School of Letters, Nagoya University, 245p. (歴史テキストの解釈学：針路、解釈実践、新たな諸問題。名古屋大学文学研究科)

“Le peuple franc et son historiographie (1),” *Hersefec. Journal of Hermeneutic Study and Education of Textual Configuration* 2 (1), pp.1-19.

“La clause pénale dans les chartes mérovingiennes et son implication,” S. Sato, éd. *Herméneutique du texte d'histoire. Orientation, interpretation et questions nouvelles, Proceedings of the Sixth International Conference*, Nagoya, pp. 45-51.

佐藤公美 (サトウ ヒトミ)

“L’ambascieria giapponese e le relazioni internazionali tra il Giappone e l’Europa nel Cinquecento,” in Barbara Baldi, Maria Matilde Benzoni (a cura di), *Lontano da dove. Sensazioni, aspirazioni, direzioni, spazi fra Quattrocento e Seicento*, Edizioni Unicopli, Milano, pp.109-127.

[書評]「齊藤寛海・山辺規子・藤内哲也編著『イタリア都市社会史入門——12世紀から16世紀まで——』」『西洋史学』233、71-73頁

斯波照雄 (シバ テルオ)

「中世ハンザ都市における領域政策」『武蔵野大学政治経済研究所年報』1、303-327頁

柴田平三郎 (シバタ ヘイザブロウ)

「トマス・アクィナスの《混合政体論》」『獨協法学』78、131-216頁

「トマス・アクィナスの暴君放伐論」『獨協法学』97、83-149頁

[翻訳]トマス・アクィナス『君主の統治について』(岩波文庫)

渋谷聡 (シブタニ アキラ)

「三十年戦争における『宿営社会』—『ある傭兵の手記』を中心に」(前川和也編著『空間と移動の社会史』ミネルヴァ書房)、309-333頁

[翻訳]厄災と手段—近世ヨーロッパの政治文化における戦争(ヴォルフガング・E・J・ウエーバー著、渋谷訳)『社会文化論集』(島根大学法文学部紀要社会文化学科編)第5号、2009年3月刊行、43~54頁)

地村彰之 (ジムラ アキユキ)

「古期英語の伝統と刷新 —「海行く人」の継承—」水田英実、山代宏道、中尾佳行、地村彰之、原野昇 著『中世ヨーロッパにおける伝統と刷新』溪水社、165-196頁

“A Historical Approach to Variant Word Forms in English,” 『英語フィロロジとコーパス研究—今井光規教授古希記念論文集—』(渡部真一郎、細谷行輝編)(松柏社、2009.6)、185-194頁

Y. Nakao, M. Matsuo, A. Jimura eds., *A Comprehensive Textual Collation of Troilus and Criseyde*: Corpus Christi College, Cambridge, MS 61 and Windeatt (1990) (共編著、Tokyo: Senshu University Press, 2009)

[書評]「寺澤盾『英語の歴史—過去から未来への物語』【中公新書1971】(中央公論新社、2008.10)」『Web英語青年』(研究社、2009.6)、50-52頁

Scahill, John (スカヒル、ジョン)

“More central than deviant: The Gonville and Caius manuscript of the *Ancrene Wisse*,” *Neuphilologische Mitteilungen* 110 (1), pp. 85-104.

鈴木明日見 (スズキ アスミ)

「ランゴバルド諸法・パヴィーアの書にみる法定年齢と未成年者の権利」『駒澤大学大学院史学論集』39、83-97頁

鈴木道也 (スズキ ミチヤ)

[書評]「渡辺節夫編『王の表象—文学と歴史・日本と西洋—』『西洋史学』233、73-75頁

[書評]「Yoshiki Morimoto, *Etudes sur l'économie rurale du haut Moyen Age historiographie, régime domanial, polyptyques carolingiens (Bibliothèque du Moyen Age, 25)*, De Boeck, Bruxelles, 2008, 472p., 55EUR.」『西洋史研究』38、131-141頁

関 哲行(セキ テツユキ)

『中世を旅する人びと』(岩波書店)

「スファラディ・ユダヤ人——中世以来の歴史の変遷」駒井洋、江成幸編著『叢書グローバル・ディアスポラ 4』(明石書店)、156-177頁

瀬谷幸男(セヤ ユキオ)

[翻訳]『中世ラテン俗謡集—放浪学僧の歌』(南雲堂フェニックス)

[翻訳]ジェフリー・オヴ・モンマス『中世ラテン叙事詩—マーリンの生涯』(南雲堂フェニックス)

苑田亜矢(ソノダ アヤ)

[翻訳]ポール・ブランド「イングランドにおける法曹の起源」(朝治啓三との共訳)『法学研究(北海学園大学)』44(3・4)、531-550頁

高田京比子(タカダ ケイコ)

「中世地中海における人の移動—キプロスとクレタの「ヴェネツィア人」—」前川和也編著『空間と移動の社会史』(ミネルヴァ書房)、185-213頁

高名康文(タカナ ヤスフミ)

『「テーベ物語」の服喪の嘆き(planctus)における死者への呼びかけ』『福岡大学研究部論集』9(3)、1-10頁

[翻訳]「トルバドゥールによる12世紀の哀悼歌(planh)の翻訳」『福岡大学研究部論集』9(3)、11-21頁

高橋清徳(タカハシ キヨノリ)

「中世パリの魚屋に関する法史料について—刊本史料を使用するための若干の予備的検討—」『専修法学論集』106、117-143頁

[翻訳]「Ch.プティ=デュタイイ『フランス中世都市における誓約団体〈コミュニオン〉』(I)」『専修大学法学研究所報』39、27-46頁

高山博(タカヤマ ヒロシ)

『地中海世界の歴史—古代から近世—』(本村凌二との共著、放送大学教育振興会)

“Religious Tolerance in Norman Sicily? The Case of Muslims,” *Puer Apuliae. Mélanges offerts à Jean-Marie Martin*, eds. E. Cuzzo, V. Déroche, A. Peters-Custot & V. Prigent (Paris, Centre de recherche d'Histoire et Civilisation de Byzance, Monographies 30), pp. 451-464.

「中世地中海世界と文明の交流」『七隈史学』11、1-12頁

田口正樹(タグチ マサキ)

「中世中期・後期ドイツの諸侯法廷」『法制史研究』58、111-140頁

[翻訳]ベルント・カノフスキ「法のクレオールとしてのブーフの注釈?」『北大法学論集』60(3)、31-59頁

[翻訳]カール・クレッシェル「暴力か法か?—中世中期のドイツにおける法理解と紛争解決」『日本学士院紀要』63(3)、256-266頁

[翻訳]アルブレヒト・コルデス「リューベックにおける皇帝法—理論的拒絶と実践的継受—」『北大法学論集』60(3)、1-29頁

武内信一(タケウチ シンイチ)

『英語文化史を知るための15章』(研究社)

蓼沼理絵子(タデヌマ リエコ)

「近代オリエントにおける「血の中傷」—現代イスラームの反ユダヤ主義的土壌の形成」『ユダヤ・イスラエル研究』(日本ユダヤ学会)23、55-62頁

田中久美子(タナカ クミコ)

「芸術庇護者アンジュー公ルネとバルテルミー・デック」浅井和春監修『イメージとパトロン』(ブリュッケ)、241-256頁

田中美穂 (タナカ ミホ)

「中世アイルランドにおける「ネイション」意識」法政大学比較経済研究所／後藤浩子編『アイルランドの経験——植民・ナショナリズム・国際統合』(法政大学出版局)、3-27 頁

田辺清 (タナベ キヨシ)

「レオナルド・ダ・ヴィンチの《モナ・リザ》—「宿命の女」の系譜から—」『大東文化大学紀要』(人文科学) 47、121-130 頁

千葉敏之 (チバ トシユキ)

「神聖なる祖国愛は魂を奮い立たせる—ポスト啓蒙期における中世史研究と C・F・アイヒホルン」立石博高・篠原琢編『国民国家と市民—包摂と排除の諸相』(山川出版社)、14-39 頁

「都市を見立てる—擬聖墳墓にみるヨーロッパの都市観」高橋慎一郎・千葉敏之編『中世の都市—史料の魅力、日本とヨーロッパ』(東京大学出版会)、123-152 頁

津田拓郎 (ツダ タクロウ)

『カロリング期フランク王国の統治構造の研究——カピトゥラリア、王国集会、教会会議——』(博士学位論文、東北大学文学研究科[<http://hdl.handle.net/10097/40149>])

常見信代 (ツネミ ノブヨ)

「ストラスアーン伯と`ノルマン・セツルメント」『国学院経済学』57(3・4)、39-82 頁

椿歌子 (ツバキ ウタコ)

[翻訳]ベルナルド・デクルー/クリスチャン・ゴー『みこころの信心のすすめ』(編訳、ドン・ボスコ社)

寺田龍男 (テラダ タツオ)

「軍記物語と英雄叙事詩(5) — 概念規定に関する諸問題 —」『メディア・コミュニケーション研究』(北海道大学大学院メディア・コミュニケーション研究院) 57、35-54 頁

藤内哲也 (トウナイ テツヤ)

「(研究ノート) 近世イタリア諸都市におけるゲッターの立地と景観」『鹿大史学』(鹿大史学会) 56、9-24 頁

徳井淑子 (トクイ ヨシコ)

“L'expression des plis dans la littérature médiévale : La « chemise ridée » dans les romans courtois des XIIème et XIIIème siècles,” *Endymatologica*, no.3, Peloponnesian Folklore Foundation, Athenes, pp.69-71.

[翻訳]シシル『色彩の紋章』(伊藤亜紀との共訳、悠書館)

永嶋哲也 (ナガシマ テツヤ)

「恋愛感情と感情表現と恋愛の範型 —恋愛 12 世紀發明説の再検討—」『自然と文化』(福岡歯科大学・福岡医療短期大学紀要) 36、25-37 頁

中平希 (ナカヒラ メグミ)

「支配はいかにして正当化されたか—近世ヴェネツィア共和国における中央—地方関係—」『西洋史学報』(広島大学) 36、51-72 頁

奈良澤由美(ナラサワ ユミ)

“L'autel paléochrétien de Saint-Victor de Marseille et les autels apparentés : essai de chronologie,” *Saint-Victor de Marseille, Etudes archéologiques et historiques. Actes du colloque Saint-Victor, Marseille, 18-20 novembre 2004*, éd. Michel Fixot et Jean-Pierre Pelletier, *Bibliothèque de l'Antiquité tardive* 13, Brepols Publishers, Turnhout, pp. 45-68.

成川岳大 (ナリカワ タカヒロ)

[翻訳]『ヒストリア・ノルベジエ (ノルウェー史) *Historia Norwegie*』本文及び解題『北欧史研究』26、68-100 頁

西村善矢 (ニシムラ ヨシヤ)

“Dispute settlement and documentation practices at the monastery of Monte Amiata in the eleventh century,” in *Herméneutique du texte d’histoire: orientation, interprétation et questions nouvelles*, [Global COE Program. Hermeneutic Study and Education of Textual Configuration. Proceedings of the 6th International Conference (Tokyo, 7-8 March 2009)], ed. S. Sato, Nagoya University, pp.53-64.

「11世紀モンテ・アマータ修道院における紛争決着と文書実践」佐藤彰一編『歴史テキストの解釈学：針路、解釈実践、新たな諸問題』（グローバルCOEプログラム「テキスト布置の解釈学的研究と教育」第6回国際研究集会）名古屋大学大学院文学研究科、191-200頁

[翻訳]フランソワ・ムナン「テキストの生産者としての中世の公証人」佐藤彰一編『歴史テキストの解釈学：針路、解釈実践、新たな諸問題』（グローバルCOEプログラム「テキスト布置の解釈学的研究と教育」第6回国際研究集会）名古屋大学大学院文学研究科、213-22頁

根津由喜夫 (ネツ ユキオ)

『夢想のなかのビザンティウム—中世西欧の「他者」認識—』（昭和堂）

「10世紀コンスタンティノーブルのアラブ人」『ヨーロッパ文化史研究』（東北学院大学）10、1-30頁

久松英二 (ヒサマツ エイジ)

『祈りの心身技法—14世紀ビザンツのアトス静寂主義』

「Zur hesychastischen Übung – Übersetzung des griechischen Texts des Kallistos Telikoudes aus der Philokalia」『神戸海星女子学院大学研究紀要』47、85-92頁

[書評]「戸田聡『キリスト教修道制の成立』」『キリスト教史学』63、202-209頁

平井真希子 (ヒライ マキコ)

「《オルガヌム大全》研究の歴史と展望」『東京藝術大学音楽学部紀要』34、123-138頁

「聖歌からオルガヌムへ—ノートルダム楽派2声オルガヌムの中景構造としての「聖歌枠組モデル」」『音楽学』（日本音楽学会）54(2)、104-116頁

「カリクストゥス写本の楽譜史料—ポリフォニー写譜者と緑の線」『西洋中世研究』1、106-122頁

福島治 (フクシマ オサム)

An Etymological Dictionary For Reading Dante's De Vulgari Eloquentia, Franco Cesati Editore via Guasti 2-Firenze 2009.

藤崎衛 (フジサキ マモル)

「はかなき肉体—中世中期における教皇の死の表象」『死生学研究』11、335-354頁

[書評]「Agostino Paravicini Bagliani, *Boniface VIII. Un pape hérétique ?*」『藤女子大学キリスト教文化研究所紀要』10、85-92頁

[書評]「ジョン・ラーナー（野崎嘉信・立崎秀和訳）『マルコ・ポーロと世界の発見』」『史学雑誌』118(2)、130-131頁

堀越宏一 (ホリコシ コウイチ)

『ものと技術の弁証法』（「ヨーロッパの中世」第五巻）（岩波書店）

“L’origine juridique du moulin banal : le droit de cours d’eau, éd. P. Corbet et J. Lusse,” *Ex animo. Mélanges d’histoire médiévale offerts à Michel Bur*, Ed. Dominique Guéniot, Langres (France), pp.425-436.

松本涼 (マツモト サヤカ)

「13世紀アイスランド農民の支配の構図と王権受容—貢税プロセスの分析より」『北欧史研究』28、1-14頁

松本典昭 (マツモト ノリアキ)

[翻訳]マリアリータ・カザローザ・グアダーニ「メディチ家の彫玉コレクション」『阪南論集 人文・自然科学編』（阪南大学）44(2)、73-91頁。

[翻訳]アンナ・マリア・マッシネッリ「コジモ1世とフランチェスコ1世時代のメディチ・コレクション」『阪南論集 人文・自然科学編』（阪南大学）第45(1)、31-40頁

三佐川亮宏 (ミサガワ アキヒロ)

「ナチズム期における中世史研究—『ドイツ史の始まり』をめぐる議論から」『近現代史研究会 会報』66、

1-9 頁

[書評]「小倉欣一『ドイツ中世都市の自由と平和—フランクフルトの歴史から』(勁草書房、2007年)『西洋史学』232、69-71 頁

水田英実 (ミズタ ヒデミ)

「中世キリスト教思想にみる伝統と刷新—トマス・アクィナス『神学大全』の場合—」水田英実、山代宏道、地村彰之、中尾佳行、原野昇 共著『中世ヨーロッパ中世における伝統と刷新』(溪水社)、9-43 頁

宮内ふじ乃 (ミヤウチ フジノ)

『物語る絵—トゥール (アシュバーナム) のモーセ五書』(聖公会出版)

宮城徹 (ミヤギ トオル)

「Bury St.Edmunds 修道院長 Baldwin と「ノルマン征服」—危機の時代における修道院の所領維持戦略—」『史学研究』(広島史学研究会) 264、1-19 頁

宮野裕 (ミヤノ ユタカ)

『「ノヴゴロドの異端者」事件の研究—ロシア統一国家の形成と「正統と異端」の相克』(風行社)
「ヤロスラフ賢公の教会規定—解説・試訳と注釈」『北方人文研究』2、81-100 頁

村上みか (ムラカミ ミカ)

「宗教改革研究における歴史的視点の導入—ベルント・メラ—」『教会と神学』(東北学院大学論集) 49、103-140 頁
「神学領域における宗教改革研究—その歴史的視点の欠如—」森田安一編『ヨーロッパ宗教改革の連携と断絶』(教文館)、307-323 頁
「1960年代から1980年代にかけてのルター研究—歴史研究の展開とその問題—」『基督教研究』(同志社大学神学部基督教研究会) 71(2)、19-36 頁
『「歴史的」ルター研究の提唱:ゲルハルト・エーベリンク』『基督教研究』(同志社大学神学部基督教研究会) 71(1)、101-112 頁

村上司樹 (ムラカミ モトキ)

「9-10世紀カタルーニャの教会と社会」『摂南人文科学』17、31-58 頁。
[書評]「金沢百枝著『ロマネスクの宇宙—ジローナの<天地創造の刺繍布>を読む』」『史学雑誌』118(6)、102-111 頁

村松真理子 (ムラマツ マリコ)

[翻訳]ロレンツォ・デ・メディチ「アンブラ」、同「謝肉祭の歌」、アンジェロ・ポリツィアーノ「ジュリアーノ・デ・メディチ殿の馬上槍試合に捧げるスタンツェ」『原典 イタリア・ルネサンス人文主義』(池上俊一監修、名古屋大学出版会)、612-634、635-669 頁

柳沼正広 (ヤギヌマ マサヒロ)

[翻訳]エラスムス「セルウァティウス・ロゲルス宛書簡(1514年7月)」『創価大学人文論集』21、77-99 頁

安元稔 (ヤスモト ミノル)

[書評]「安元 稔『社会史と経済史—英国史の軌跡と新方位』」『経営史学』44(3/December)、73-76 頁

山内志朗 (ヤマウチ シロウ)

「イスラム哲学からの視座」飯田隆他編『哲学史の哲学』(岩波書店)、231-254 頁
「ライプニッツにおけるアヴィセンナの声—共通本性の系譜」『哲学の探究』36、41-55 頁
「中世における情念」、『創文』7月号、15-18 頁
「中世の論理学」、『理想』9月号、136-145 頁
「中世哲学と情念論の系譜」、『西洋中世研究』1、75-86 頁

山口隆介 (ヤマグチ リュウスケ)

「トマス・アクィナスの節制概念」『聖泉論叢』16、133-146 頁

山代宏道 (ヤマシロ ヒロミチ)

『中世ヨーロッパにおける伝統と刷新』(水田英実・中尾佳行・地村彰之・原野昇との共著、溪水社)

[翻訳]デイヴィッド・ロラソン「ダラム司教座教会—ノルマン征服前後の北部イングランド修道院共同体とその都市—」『西洋史学報』36、73-95頁

山田雅彦 (ヤマダ マサヒコ)

「中世都市の文書管理—北フランス・ネーデルランドの諸事例に見る—」岡崎敦編『西欧中世文書の資料論的研究—平成20年度研究成果年次報告書』(科研費研究課題20320117報告書)九州大学、2009年3月、25-39頁。

[書評]「藤井美男『ブルゴーニュ国家とブリュッセル—財政をめぐる> 形成期近代国家と中世都市—』『社会経済史学』75(1)、100-102頁

山辺規子 (ヤマベ ノリコ)

『ノルマン騎士の地中海興亡史』(白水社、Uブックスとして再版)

[翻訳]ポール・フリードマン『【世界】食事の歴史—先史から現代まで』(東洋書林、南直人との共監訳)(C.M. ウールガー「第5章—宴会と肉断ち—中世ヨーロッパにおける食べ物と味」を含む3章の翻訳を担当)

横山安由美 (ヨコヤマ アユミ)

「好きなものを与えるという約束—中世フランスにおける強制的贈与のモチーフ—」『国際交流研究』(フェリス学院大学)11、57-90頁

[翻訳]『アベラールとエロイズ—愛の往復書簡』(沓掛良彦との共訳、岩波文庫)

吉川文 (ヨシカワ アヤ)

『はじめての音楽史—増補改訂版』(久保田慶一ほかとの共著、音楽之友社)

頼順子 (ライ ジュンコ)

[書評]「イヴ=マリー・ベルセ著—阿河雄二郎・嶋中博章・滝沢聡子訳『真実のルイ14世—神話から歴史へ—』」『西洋史学』234、76-77頁

和栗珠里 (ワグリ ジュリ)

「ヴェネツィア共和国の外国人貴族—傭兵隊長の事例より—」『桃山学院大学人間科学』36、197-222頁

渡邊伸 (ワタナベ シン)

「ドイツ宗教改革における公会議論の展開について—1532年ニュルンベルク宗教休戦までを中心に—」森田安一編『ヨーロッパ宗教改革の連携と断絶』(教文館)、137-155頁

渡部武士 (ワタナベ タケシ)

「説教師は多様な社会的身分をいかに捉えたか—ジャック・ド・ヴィトリ(1160/72-1240)を中心に—」『中国四国歴史学地理学協会年報』5、51-62頁